

沖縄を二度と戦場にさせない

基地をなくし、安全・安心、誇りある豊かな沖縄へ



「沖縄の心」
つらぬく

あかみね政賢

辺野古新基地建設やめよ 「沖縄の心」で 政府を追いつめる

大浦湾側の軟弱地盤で工事の長期化は必至と追及。政府は完成の見通しさえ示せませんでした。新基地建設中止、普天間基地の無条件返還の対米交渉をと、迫り続けています。

戦没者を冒瀆するな

沖縄戦遺骨収集ボランティア、宗教者の方々とともに「戦没者の無念と遺族の心情に寄り添って、南部の土砂を埋め立てに使用するのはやめよ」と政府・防衛省に要請。



▲ガマフヤー貝志堅隆松さんと糸満市を調査

離島の輸送費補助の増額へ 県民の声を 政府に届けて

農家から「補助がなくなれば花農家をやめる」など悲痛な声が上がっているとして、離島の農林水産物の県外への輸送費補助の増額を要求。

あちこーこー豆腐の存続へ

豆腐屋を営む事業者の声を届けた質問は、「あちこーこー豆腐、存続に光」(琉球新報)と取り上げられました。

若者や建設労働者への支援を

若年妊産婦を支援する民間団体への助成、建設労働者に適正な賃金が支払われるよう求めてきました。

沖縄いじめに屈しない 国政から デニー知事支える

一括交付金の増額を

一括交付金の減額で、河川・港湾の改修が遅れ、学校の危険箇所等の改修が見送られたと指摘し、増額を要求。沖縄振興特別措置法の附帯決議には、一括交付金の「必要な額の確保」が盛り込まれました。

「新建議書」実現へとりくみを

岸田首相(当時)に対して、玉城デニー県政の下で本土復帰50年の節目に策定された「新建議書」を正面から受けとめ、「基地のない平和な沖縄」へ向けてとりくむよう迫りました。

米兵女性暴行事件と政府の隠ぺいは許されない!。米軍と政府は被害者と県民に謝罪すべきだと追及するあかみね政賢衆院議員(写真・2024年7月30日、衆院安全保障委員会)

2000年初当選以来
国会質問などの回数
873回
2024年8月22日現在

2021年総選挙~
質問などの回数
108
赤嶺議員

自民党現職
(比例復活)

10



▲2014年衆院選
故翁長雄志知事
稲嶺進名護市長と



▲小選挙区・1区で
2014年、17年、
21年と連続して勝利

オール沖縄・翁長県政の誕生に奮闘
1区・オール沖縄代表として連続当選
「うりずんの会」会長就任、団結強化を推進
(オール沖縄国会議員で結成)



▲古堅実吉さんと
「沖縄を返せ」を合唱



▲2001年、
アフガン戦争現地調査
小池晃議員(手前)と

2000年、古堅実吉衆院議員の
あとを継ぎ、衆院議員初当選(現在8期)



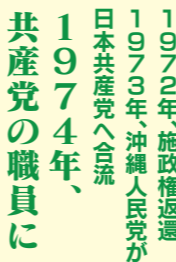
▲国吉辰雄議員のあと
を継ぎ、那覇市議へ



▲沖縄師範健児之塔慰霊祭
を師範鉄血勤皇隊の生き
残り古堅実吉さんと参拝

1985年、地元の方々におかれて
那覇市議に、親泊市政をささえて3期

1972年、施政権返還
1973年、沖縄人民党が
日本共産党へ合流
1974年、
共産党の職員に
教師として、石垣島
の八重山高校に赴任。
そこで目の当たりに



▲八重山高校、
八重山商工高校で教員



▲八重山高校、
八重山商工高校で教員

1971年、国語教師に
山之口猷詩集など
教科書にない沖縄の良さを教える



▲沖縄返還を求め
4.28 海上大会に参加

「沖縄を返せ」
(作詞:全同労連支部 作曲:荒木栄)
かたき土を破りて
民族のいかりにもゆる島 沖縄よ
我らと我らの祖先が
血と汗をもって
守りそだてた沖縄よ
我らは叫ぶ 沖縄よ
我らのものだ 沖縄は
沖縄を返せ 沖縄を返せ

1971年、野蠻な米軍支配に憤り、
県民が大同団結して島ぐるみでたたかう復帰
運動・大会などに参加。東京教育大学入学後
は「沖縄返還」を訴えて全国を行脚しました。

青春時代から異民族支配を打破したいと
県民とともに歩む



▲沖縄戦で廃墟となった
那覇市。米軍の基地が
強制的に建設される



▲従兄弟と
父の農作業手伝い中に
戦没者遺骨拾うことも

あかみね政賢歩み
小縁・宇栄原生まれ、米軍支配を体験